

平成28年度 第1回 京都市民活動総合センター運営委員会
議事摘録

日時：平成28年6月20日（月）18：30～20：30

場所：京都市市民活動総合センター ミーティングルーム

出席者：小暮宜雄（京都橘大学現代ビジネス学部教授・学生部長）

杉本星子（京都文教大学総合社会学部教授）

大石尚子（龍谷大学政策学部准教授）

小嶋進（公益財団法人京都オムロン地域協力基金事務局長）

有川真理子（認定NPO 法人環境市民コーディネータ）

小谷智恵（NPO 法人アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんネット事務局長）

高嶋加代子（NPO 法人京都コミュニティ放送企画室長）

宮川知子（公益財団法人京都ユースサービス協会、山科青少年活動センター チーフユースワーカー）

神田浩之（京都府府民生活部府民力推進課課長）

牧村雅史（京都市文化市民局地域自治推進室市民活動支援課長）

議事次第：

1. 主催挨拶、委員交代について（京都府）
2. 委員紹介及び挨拶
3. 議事審議
 - I：平成27年度事業説明・報告
 - II：平成28年度事業計画説明

I：平成27年度事業説明・報告

平成27年度京都市市民活動総合センター事業について、事務局 内田より報告（詳細は配布資料参照のこと）

○意見交換等

- 2015年度事業報告の中での、いきいき市民活動センター（以下、いきセン）と市民活動総合センター（以下、しみセン）との連携事業に関する質問に、しみセンから以下を回答した。
 - ・ いきセンは、市内に13施設あり、それぞれ指定管理者が運営している。貸し会議室等の施設管理のほか、立地する地域環境に応じて地域密着の取り組みを行っている。
 - ・ 市民活動総合センターは、NPO・市民活動団体へのサポートという視点から運営しており、地域密着という視点はいきセンのほうが強い。
 - ・ それぞれ得意とする部分は異なるが、機能としては重複する部分もある。いきセンでも市民活動支援の機能を強化していく方向性があるので、しみセンと連携することでNPO・市民活動団体全体の底上げにつながるような成果をめざしている。

- ・ 現状においては、各いきセン間、いきセン・しみセン間の連携は充分とはいえないところがあるが、2015年度に行った合同研修会や、しみセンHPでのいきセン情報の掲載などをきっかけに、今後も関係性を深めながら、利用者の利便性を高めることにもつながるような関係性を構築したい。

(委員より)

- ・ いきセンの存在や機能は、まだまだ知られていないし、知る手がかりが少ない。
- ・ 利用者の立場からいうと、イベントや講座などを探す時、やりたい事と自宅からの距離などで判断するし、よほど関心があるものについては居住地を越えて参加できるのかどうかを知りたくもなる。そうしたイベント情報が一覧できれば便利だが、13センターを一つずつみなければならぬのは不便。またホームページをみないシニア層もいるので、そうしたところには別媒体で情報を届けるような工夫も必要なのではないか。ホームページが主要な媒体になるということは理解できるが、多様なツールで利用者に便利のように発信しないと、施設の利用率もあがらないのではないか。
- ・ 市民しんぶんで一度特集を組んでみてはどうか。
- ・ 一度いずれかのセンターに行くと、そこにおいてあるほかのイベントチラシなどから情報を得て、いろんなところに関心が広がっていくと思う。いきセンやしみセンにむけた、最初の一步を踏み出してもらうための工夫は大事だろう。
- ・ いきセンは地域密着で多くの人がかかわっている。いきセンにかかわっている大学生もいるが、彼らの意識はなかなかしみセンにまでは向かない。いきセンからしみセンへの導線もつくることで、しみセンに見学などに来て、さらに地域やNPO等への理解を深めることができるのではないか。

■ 利用者アンケートについて

(委員より)

- ・ 今後は、集計結果に対して事務局がどのようにとらえているかの見解も含めた情報提供をしてほしい。
- ・ こうしたアンケートをもとに、しみセンの事業のどういう部分に活かしていつているのかが見えにくい。反映させている部分があれば教えてほしい。

(しみセンより)

- ・ アンケート回答者の年齢は60代以上が最も多い。また男性も増えている。しみセンの来館者の年齢では、顔をあわせてのコミュニケーションを望んで来館される。一方20～30代はウェブで情報収集をする。館内での情報発信とウェブでの情報発信は、そうした利用者層を踏まえて変えていくとつながる。
- ・ 60代以上の方は、活動メンバーとしてだけでなく、団体が提供する講座等の利用者として来ているケースもある。そうした人たちに、ボランティア情報など、ご本人の関心を広げるような情報

提供をする声かけは行っている。また掲示などでも来館者の次のアクションになるような情報の出し方の工夫はできればと思っている。

II：平成28年度事業計画説明

平成28年度京都市市民活動総合センター事業計画について、事務局から説明を行った。

今期の指定管理の大きな方針でもある以下3つの方針に基づき、5つの事業を重点的に取り組んでいく。

<事業方針>

- 1：NPO・市民活動のパブリック・リレーション力向上
- 2：NPO・市民活動のインフラ整備とキャパシティビルディング
- 3：NPO・市民活動を支える仕組みの構築

この方針の基本としては「ほっとけない課題に対して、ほっとかない社会環境を作る」という前提がある。

<5つの重点事業>

- 1：新情報ポータルサイトの構築による情報発信の拡充
web、SNS といった手段を活用し情報を拡散する
- 2：ニーズに合わせた講座内容の転換
マネジメントや組織基盤の強化という内容を充実させる
- 3：多様なセクターの人材による「市縁堂」運営
実行委員会形式として、企画立案の部分に様々な人材に関わってもらいながら進める。
- 4：hotpot のコンセプト転換
潜在的関心層、無関心層に届くようにリニューアル予定である。
- 5：人材育成
様々な相談に対応し、コーディネート力を上げるためのスタッフの基礎能力強化を行う。

○意見交換等

■各種事業について

(1) 講座

(委員より)

- ・ しみセンの推進するパブリック・リレーションに関する講座として、広報戦略講座をやってほしい。チラシの作り方などの個別の講座はあるが、広報戦略のような体系だったものは少ない。
- ・ 資料によると認定法人も増えているが、解散も増えている。認定として組織を整えていく部分のサポートと、解散という両方のニーズにこたえていくことが求められているのではないかと。それがしみセンの事業対象になるかどうかかわからないが・・・
- ・ 「ファンドレイジング」という言葉は広まってきたが、組織運営において「財務」という考え方がなかなか理解されていないと思う。そうした講座も考えてみてはどうか。
- ・ JANIC が、国際協力分野の団体を対象に「組織強化大賞」という表彰を行っている。

経営・戦略、働き方改革、担い手育成、女性スタッフの登用・活躍などの4部門で、取り組み表彰を行うもの。その事業そのものをしみセンでやらなくても、そのリソースを活用した取り組みを考えることもできるのでは？

- ・企業連携なども考えて、退職直前の人たちの社会活動への参加を促すような取り組みもできるとよいのでは。

(しみセンより)

- ・市民活動をしている人達をほっとかない社会環境をどう作っていくかというところに、しみセンとしても、団体支援からシフトチェンジしようとしている。パブリック・リレーションの取り組みでは、団体の発信力強化だけでなく、受け手の受信力もあげるような事業を考えていきたい。しみセンに来ない人を、どのように巻き込んでいくかを考えながら戦略を練ることを委員のみなさんと考えていただけると嬉しい。
- ・市民活動支援としてしなければいけないことに関しては、少数のニーズであってもしっかりとやっていく。その形として講座がいいのか個別相談がいいのかなどについては、その時々判断を行いたい。

(2) その他事業

(委員より)

- ・スモールオフィスについては、インキュベーションを目的として取り組んできており、それはそれでよいと思う。しかし、ソーシャルビジネスとして取り組む団体があったり、組織として大きくなることをめざさずに安定した活動をする団体もある。NPO・市民活動団体の在り方が多様になってきている中で、スモールオフィスはどのような在り方がふさわしいのか、運営委員会で意見を出し合うことがあっても良いかもしれない。

■運営委員会のあり方について

(委員より)

- ・運営委員の意見や運営委員会がどこまでしみセンの運営に貢献できたのか、あるいは意見が反映されたのかがよく分からない。例えば、スモールオフィスに関しても、1団体複数デスクの利用ニーズや満期で退去した団体の再入居ニーズへの対応が可能かどうかという意見も出したことがある。できないものもあると思うのでそれは仕方ないが、検討した結果どうだったかという報告はしてほしい。
- ・当日配布の資料が多いので、できるだけ事前の資料配布をお願いしたい。
- ・テーマを絞って集中的に議論し、各回、委員会の最初に前回会議のレビューがあると議論に入りやすいのではないかと。長い議事録はなくてもよい。

(しみセン)

- ・確かにスモールオフィスについては、デスクにも空きがある状態ではあるが、特定の団体が使い続けることができる環境をつくるのが、NPO・市民活動の自立等の観点から適切かどうかとい

う視点は持っており、現実としては難しいと考える。

- 提案いただいた内容への取り組み状況について報告ができていなかったり、成果をうまく共有できていないという点は、反省して改めていきたい。
- しみセンの取り組みやその成果をうまく共有して、皆さんから俯瞰的な意見をいただきながら、しみセンが何を表現していく事が市民社会活動の支援になるのかという議論を継続できればうれしい。

以上